



鈴木 朝英 先生揮毫

事務局 札幌市西区西野
7条2丁目1-2
齋藤 彰 方
TEL 090-3773-8824

発行責任者
会長 竹田 正直
北大教育学部同窓会

部局構成員の変化と 部局や大学の動き



教育工学研究院長・教育學院長・教育学部長

小内 透

私こと本年四月から二期目の教育学研究院長・教育學院長・教育学部長に就任いたしました。これまでと同様、よろしく願います。部局や大学の現状についてご報告申し上げ、ご挨拶にかえさせていただきます。

まず、大学院教育学研究・教育學院・教育学部所属の教員の動向についてお伝えします。本年三月末をもって、姉崎洋一特任教授、西尾達雄特任教授、矢野徳郎特任教授の三人の方が辞められました。いずれも定年後二年の再雇用期間を終えて退職されることになりました。三人の先生には在職中、教育・研究・管理運営に尽力していただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

一方、四月から山仲勇二

郎准教授（北海道大学大学院医学研究科助教・健康教育論講座／生活健康学）が教育学部所属の教員になりました。睡眠と健康の関係を研究しておられます。昇進については、四月から上原慎一准教授が教育社会論講座で産業教育を担当する教授、松田康子准教授が臨床心理学講座で障害者臨床心理学を担当する教授になりました。お二人の活躍が期待されます。

大学院教育学部所属の先生にも異動がありました。三月末に木村純特任教授（高等教育推進機構）、竹本幸博特任教授（メディア・コミュニケーション研究）が再雇用期間を終えました。在任中は教育學院生涯学習講座（木村特任教授）ならびに教育學院多元文化教育論講座（竹本特任教授）に所属し、院生の教育に貢献していただきました。お礼申し上げます。

続いて、部局や大学の動きについて、お知らせします。本局では、今年度から研究院の分野構成を再編しました。本局は昭和二

北海道大学 ホームカミングデー 2016

主催…北海道大学 共催…北海道大学校友会エールム
会場…北海道大学 札幌キャンパス（クラーク会館他）
日時…平成28年9月24日（土）

交響楽団による演奏

歓迎式典

10…00 記念講演会「恐竜研究最前線」

10…30 小林 快次 准教授

11…20 11…30 パイプオルガン研究会による歓迎のステージ

11…30 12…00 恵迪寮同窓会による「都ぞ弥生」斉唱／フィナーレ

詳しくはホームページをご覧ください。

ホームページはこちら <http://www.hokudai.ac.jp/home2016/>

文系四学部共同開催公開シンポジウム

会場…14…00 16…30 W棟（軍艦講堂隣）103号室

テーマ…「地域を創造する人育て」

パネリスト…佐原 品博 氏（1979年北大教育学部卒、北海道銀行頭取）

大見 英明 氏（1982年北大教育学部卒、生活協同組合コープさっぽろ理事長）

遠藤知恵子 氏（1963年北大文学部卒、1994年大学院教育学研究科博士課程修了、北翔大学元学長、札幌遠友塾自主夜間中学代表）

司会…小内 透（北海道大学大学院教育学研究院長）

*15…50 16…30 は質疑応答

詳しくは会報最終ページの広告をご覧ください。

H28年度北海道大学教育学部同窓会総会・懇親会

日時…平成28年9月24日（土） 16…45 17…15

会場…軍艦講堂1番教室

四学部合同懇親会…17…30 中央食堂2階

会費…3,000円（同伴家族は2,000円）

連絡先（幹事）…TEL…090-3773-8824

齋藤 彰（1980年教育行政卒）

四年五月に教育学部として発足し、昭和二八年四月に大学院教育学研究科が設置されました。その後、平成一九年四月に大学院教育学研究科が、教員の所属組織・研究組織としての教育学研究院と、院生の所属組織・教育組織としての教育学院に分離再編されました。

このうち教育学院と教育学部は、それぞれの内部組織としての講座と学科目の対応関係が明確でした。具体的には、「学校教育論」と「教育基礎論」の教員が同一で、「生涯学習論」＋「教育社会学」が「教育社会学」＋「教育心理学」＋「臨床心理学」が「教育心理学」＋「臨床心理学」が「教育心理学」＋「健康教育論」＋「身体教育論」が「健康教育学」という形にそれぞれ対応し、「多元文化教育論」は学院のみの講座でした。これに対し、教育学研究院と教育学院・教育学部は、明確な対応関係がありませんでした。同一の講座（学院）、同一の学科目（学部）に属する教員でも、異なる分野（研究院）に属することがありました。教員人事を行う際、現実には、教育学院や教育学部で担当する講座や学科目を想定して進められ、研究院の分野は事後的に決めるだけでした。その結果、研究院の分野は教員の形式上の所属先としてしか意味をもたず、教育学院や教育学部

と関連した部局全体の研究・教育に貢献する機能が果たせなくなってきました。これらの点を踏まえ、教育学研究院の分野構成を、

「教育社会学」、「教育基礎論」、「教育心理学」、「健康教育学」に再編し、教育学部の学科目と一致させることにしました。

研究院の分野構成の再編は、新たに進められる新しい大学院への関与という事態に対応するねらいもあります。前回の同窓会便りでも紹介したように、平成二九年度開設予定の国際食資源学院に教育学研究院所属の教員が参画することになっていきます。北大では今後新しい学院が作られる予定で、教育学研究院に所属し教育学部の教育に従事すると同時に、教育学院ではなく他の学院の大学院教育を担う教員が増加する可能性があります。そのため、学部の学科目と研究院の分野が同一である方が、教員の位置づけが明確になると考えました。

今年度から学部のカリキュラムも大きく変えました。カリキュラム改定のねらいは、「多様な専門知識・経験を有した学生の育成」「学生の学ぶ選択肢の拡大」「国際経験豊かな学生の育成」「カリキュラム編成の柔軟性と機動性の確保」「クォーター制への対応」の四つです。新しいカリキュラムで、もっとも大きな特徴は、専門演習（ゼミ）の履修方法・時期を変えたことです。専門演習を二年度後期から四年度前期に開講し、二年度後期と三年度前期は複数の専門演習を履修することができ、三年度後期から一つの専門演習（本ゼミ）を選ぶ形にしました。前回の同窓会便りでも紹介したように、近年専門演習は一人の教員が開講するのが主流となったため、複数の専門演習を体験してから卒業論文につながる専門演習を選ぶ形に変えました。また、大学が推進しているクォーター制（四学期制）科目の導入に対応して、前期二単位で開講していた教育学概説を一単位ずつのクォーター制科目にしました。それ以外にも多くの変更点がありますが、新しいカリキュラムが効果を発揮できるよう、定着と運用を図っていくつもりです。

大学全体では、昨年の同窓会便りでも紹介した国際化の動きがさらに加速しています。本部局でも、昨年度から全学的に始まったサマインスティテュート（今年度から開始することになりました。サマインスティテュートは、海外のトップランナーの研究者を北大に招き、北大の院生と海外からの留学生を相手に英語で授業を行ってもらうプログラムです。今年度は七月二〇（二十八）までの期間に実施します。これに合わせて、院生だけでなく参加に制限のないオープンゼミナーも複数開催します。サマインスティテュートとオープンゼミナーには、海外から六名の研究者、日本の他大学から七名の研究者をお招きしています。この文章が読まれる時には、すでにすべてのプログラムが終了していますが、これらの取り組みは今後も継続していくつもりですので、来年度のプログラムに期待して下さい。

本部局が独自に行っている学部生向けのESDプログラムも、今年度からサマインスティテュートの時期に合わせて、実施することになりました。今年からこれまでの北京師範大学（中国）・高麗大学（韓国）・ソウル国立大学（韓国）・チュラロンコン大学（タイ王国）に加えて、新たにサハリン国立大学（ロシア）が参加し、ESDキャンパスアジア・パシフィックとして実施されます。各大学から四名、北大教育学部から二四名の学生が参加して、七月に北大で英語での集中講義やフィールドワークなどを行い、八月以降北大教育学部生が四名ずつ各大学で英語での集中講義等を受講します。各大学への北大生の振り分けは事前に決めておき、海外の学生たちが来道した時点から帰国の途につくまで、自らが行くことになる大学の学生と行動をとるにするバディ・システムを採用しています。そのため、参加学生相互の交流はプログラム終了後も継続しています。なお、北大教育学部生が海外の参加大学へ行く際に教員が同行し、相手大学の学生を対象にした英語の講義を行ったりします。これが昨年度から本格的に開始

されたラーニングサテライトの取り組みとして位置づけられます。

全国的には、今年度から第三期中期目標・中期計画期間に入るのを契機に、大学を世界レベル、全国レベル、地方・専門レベルの三種に分け、各大学がいずれかを選択しそれに見合った評価とそれにもとづく資金の提供がなされるという大学の種別化政策が導入されました。従来大学が受けてきた運営費交付金の約一％をあらかじめ減額し、そこから生じた約一〇〇億円を各大学からの戦略提案にもとづいて評価し再配分するという仕組みです。北大は「世界で卓越した教育研究」を進める大学として手をあげ、評価の結果、重点支援枠として減額分とは別に同額の一〇〇・二％が配分されることになりました。「世界で卓越した教育研究」を進めるとした一六大学のうち、京都大、神戸大、九州大が一〇・三％で、一〇〇・二％は東京大等とともにそれに次ぐ配分率でした(七大学)。ちなみに、九〇・二％が五大学、八〇・二％が一大学でした。

今後、基盤的な財源である運営費交付金を減額し、権限が強化された学長に裁量権のある大きな財源を与え、学長のリーダーシップのもとでそれぞれが選んだ種別にふさわしい大学づくりを促す仕組みがより強くなっていくと思われます。

これから、さらに新しい状況が大学に現れてくることは確実ですが、これまでの本部局の伝統を踏まえ、さらなる発展を遂げられるよう、努力していきたいと考えております。同窓生の皆様方にも、これまで以上のご支援ご指導をいただければ幸いです。

最後になりましたが、今年の九月二四日に行われるホームカミングデーでは、本部局の責任で文系四学部合同シンポジウムを開催します。笹原晶博氏(北海道銀行頭取)、大見英明氏(コープさっぽろ理事長)、遠藤知恵子氏(北翔大学元学長・遠友塾自主夜間中学代表)の三名の同窓生を迎え、「地域を創造する人育て」というテーマでシンポジウムを行います。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

「文系四学部同窓会 合同シンポジウム 九月二四日(土)二時 教育が当番です!」



北大教育学部同窓会会長
竹田 正直

(1) 笹原頭取、大見理事長、 遠藤元学長が提言

今年の第五回北海道大学ホームカミングデーは、九月二四日(土)に行われることになり(毎年九月の最終土曜日)、全学行事が九時五〇分からクラーク会館ではじまり、同会館二階でのランチ交流会の後、午後二時から四時半まで、人文社会科学総合教育研究棟(旧理学部本館)現北大博物館東側向かい、一階、W一〇三室、北大構内、北一〇条西七丁目)で、文系四学部同窓会合同シンポジウムが行われます。

三年前の第二回ホームカミングデーから、法、文、経、教育の文系四学部同窓会が協議し、合同シンポジウムの開催とその後の各学部ごとの同窓会総会、そして、再度、五時半から合同懇親会を北大生協の中央食堂二階レストランで開催というスタイルで取り組んで来ました。最初は、文学部同窓会が当番学部で、二年前が法学部、昨年度が経済学部で、今年、二〇一六年が教育学部同窓会が当番学部です。

教育学部同窓会役員会では、昨年来、討議を重ね、今年度の役員会(五月一日)には、小内透教育学院長・教育学部長と浅川和幸同教授・社会連携委員長にも出席していただき基本方針を確認致しました。その後、三本木毅同事務長、小島清志同庶務係長など事務部の支援もいただき、小内学部長、浅川教授、齋藤彰教育学部同窓会幹事長、及び竹田で詳細を煮詰め、テーマの確定と提言者への依頼・打ち合せをなど行いました。また、その間、文系四学部同窓会幹事長・各学部事務部担当者会議などで方針と内容についての協議と承認をいただき、次のような内容を確定し、現在普及活動に取り組んでおります。

テーマ「地域を創造する人育て」

総長挨拶・北海道大学総長

山口 佳三

開会の挨拶・教育学部同窓会会長・名誉教授

竹田 正直

司会者・大学院教育学院長・教育学部長

小内 透

提言者…

〇「産業を支える人育て」

北海道銀行頭取 笹原晶博氏(教育学部27期卒)

〇「生活を支える人育て」

コープさっぽろ理事長 大見 英明氏(教育学部30期卒)

〇「学びを支える人育て」

北翔大学元学長、札幌遠友塾自主夜間中学代表 遠藤 知恵子氏(教育学部30期卒)

(入場は自由、無料です。知人・友人をお誘いしてぜひ参加して下さい)

(2) 合同懇親会には秋元札幌市長も出席

北海道銀行頭取の笹原晶博(まさひろ)さんは、一九七九年(昭和五十四年)三月に教育学部の産業教育ゼミを卒業し、北海道銀行に入行し、副頭取を経て二〇一六年六月から頭取に就任し、北海道、東北、北陸地域で有数の銀行(約一四〇余店舗、従業員総数約二、三〇〇人、総資産約四兆九千億円)を「地域共栄」「公正堅実」「進取創造」の経営理念のもと指導しています。副頭取時代は、創立以来の中小企業の振興に努力し、グローバルとローカルを統合したグローバル・ローゼーションを体現し、十勝を中心とした農業生産者のロシア極東地域への進出を支援し、ロシアの大銀行とのあいだで円とルーブルの直接決済を実現しました。また、北大病院の癌の陽子線治療のロシア進出の側面支援も行っています。

コープさっぽろ理事長大見英明さんは、一九八二年(昭和五十七年)三月に教育学部の社会教育ゼミを卒業し、コープさっぽろに就職し、水産部長、商品部長などを歴任。二〇〇六年に専務理事に就任し、二〇〇七年から理事長として、組合員約一五〇万人、正職員約三、〇〇〇人、パート職員約一〇、〇〇〇人をリードしています。一時期、日生

協から多額の支援を受けた
コブさつぽろを見事に立
て直し、年商二、八〇〇億
円は、都道府県単独生協と
しては、かつてのトップの
離生協を抜いて、近年の法
改正で関東圏生協が合併
(約四、〇〇〇億円)する
まではトップでした。理事
長に就任して、次々と新し
い事業を立ち上げ成功させ
ています。例えば、宅配の
「トドック」(約七〇〇億
円)、店舗の大胆な改革改
善、電力事業への参入(二
万軒を超え三万軒目標)、
専門家による職員教育など
です。なお、コブ文化教
室は八、〇〇〇人が受講し
ています。大見さん自身も
北海学園大学や小樽商科大
学で講義をしてきています。
北翔大学元学長、札幌遠
友塾自主夜間中学代表の遠
藤知恵子さんは、北大文学
部独文を卒業し、法学部で
の勤務を経て教育学部へ編
入学し、大見さんと同学年
で社会教育ゼミを卒業し大
学院へすすみ博士学位を取
得し、東北の大学に勤務。
札幌にもどり北翔大学教授
(生涯学習担当) 在任中に、
初の教員選挙により学長に
選出され、大学の再建に尽

力しました。学長退職後、
今年創立二六六年を迎えてい
る札幌遠友塾自主夜間中学
代表に二〇一二年から就任
し、様々な理由で義務教育
を受けることができなかった
人々に、毎週水曜日、
札幌市立広陵中学校を札幌
市教育委員会の支援をうけ
て使用して、約七〇名のス
タッフで、自主教育活動を行
っています。自主認定の
約三七〇名余の卒業生を社
会に送り出し、学習権の実
現で最も困難な状態の及び
とを献身的に支援してきて
います。

(3) ホームカミングデー全 学行事

全学行事は、二〇一六年
(平成二八年) 九月二四日
(土) 午前九時五〇分から
クラーク会館大ホールで、
北大交響楽団による演奏で
開始されます。

歓迎式典として、
ご挨拶 「北大の近況に
ついてご報告」 北海道大
学総長 山口 佳三氏
ご挨拶 北海道大学校友
会エルム 会長 石山 喬
氏

記念講演会、一〇時三〇
分・小林 快次 北海道
大学総合博物館 准教授
演題「『恐竜研究最前線
北海道大学が恐竜研究で大
活躍』」
司会は、HBC北海道放
送アナウンサー 船越ゆか
り氏(経済学部卒)です。

一一時二〇分から北海道
大学バイブルガン研究会
による「都ぞ弥生」、「永遠
の幸」、「トッカータとフー
ガ」二短調 BWV五五五
(バッハ作曲)、「主よ人の
望みの喜びよ」 BWV一四
七(バッハ作曲)の演奏
があります。演奏は辻ゆり
さん(文学部四年)です。

結びは、恵迪寮同窓会に
よる「都ぞ弥生」斉唱
ファイナーレです。

その後、クラーク会館二
階でランチ交流会が会費制
で行われます。

(4) 全学同窓会の新組織
「北海道大学校友会エル
ム」発足
二〇一六(平成二八)年
六月一日(水)午後三時か
ら、京王プラザホテル札幌
で、「平成二八年度北海道
大学連合同窓会評議会・幹
事会合同会議」が開催され、
評議員・幹事等約八〇名が
参加して、これまでの全学
同窓会であった「北海道大
学連合同窓会」(石山喬会
長)を解散し、新たに「北
海道大学校友会エルム」を
全学同窓会の新組織として
発足させました。北大教育
学部同窓会から、会長の竹
田正直評議員と幹事長の齋
藤彰幹事が出席致しました。

前記の合同会議では、ま
ず、平成二七年度事業・決
算報告を承認し、連合同窓
会が所有する財産の新組織
への承継と解散を承認しま
した。

同窓会は、各部局・組織ご
との同窓会と地域ごとの同
窓会の連合組織でしたが、
それらは、従前どうり基礎
単位として「北海道大学校
友会エルム」に加盟し、新
たに現職の教職員や在学中
の学生、大学院生、研究生
など北海道大学のすべての
関係者が構成員となりうる
ことです。

新組織のミッションは次
の四点です。①近い将来、
国内外において「学問の深
耕や垣根を越えた活動によ
り新たな知の価値を創造し、
社会・地域の課題解決に貢
献し社会改革を主導する」
ことが囑望される在学生・
院生の就職活動や教育・研
究活動への支援を最重要課
題に位置づけて取り組みま
す。②世代・職域を越えた
卒業生と在学生・院生、教
職員との連携により世界の
中で輝く北海道大学を目指
します。③財政基盤の確立
と実行機能の充実による情
報発信、研鑽、提言等の活
動を展開します。④さらに、
同窓会の海外での組織化と
大学のグローバル活動への
積極支援を行っていきます。
会則の承認とそれに基づ
いての役員理事・監事を選

出し、直ちに役員会を開催
して、会長に石山喬日本軽
金属ホールディングス(株)取締
役会長、昭和三九年工学部
卒)を、名誉会長に山口佳
三北海道大学総長を選出し
ました。竹田は一七名の役
員理事の一人です。

設立当初の資産は、連
合同窓会から承継した
一四、八五〇、〇〇〇円です。
収入は従来からの企業説明
会や諸事業の収入と、今後
の新人会員や入学生の会費
収入とし、既存の部局同窓
会や地域同窓会の会員は所
属同窓会への会費支払いの
みです。「北海道大学校友
会エルム」のHPはすでに
立ち上がっています。また、
事務局は、北大構内の百年
会館に置かれています。

(5) 教育学部同窓会役員会
その他
教育学部同窓会役員会が、
二〇一六年五月一九日午後
六時、北大遠友学舎で開催
されました。

齋藤彰幹事長からの報告
では、昨年の総会と今春の
大学院教育学院・教育学部
の卒業・修了式と祝賀会へ
の役員の出席と激励、会計
報告、とくに、一昨年来の

会報での竹田会長による会費納入の訴えにこたえてく

れて増収となり、黒字の可能性がでてきたことが報告されました。竹田からは、文系四学部合同シンポジウムの準備状況と前記の全学同窓会の改組について報告しました。今年の会費送金もよろしくお願いいたします。

審議事項では、第一に、文系四学部合同シンポジウムの基本内容を討議・承認したこと、第二に、二〇一六年の会報発行のための原稿依頼などの準備について、例年通り七月二〇日、原稿締め切りとしたこと、第三に、五年ごとの学部同窓会名簿の発行について、一般会計からの持ち出しのなきよう、印刷所の(株)アイワードとの交渉を齋藤幹事長に一任したこと、第四に、齋藤幹事長から家族の介護にともなう困難さが提起され、何らかの配慮を今後検討すること、などでした。

同窓生の皆さまも、次々と定年を迎える世代がふえてきており、両親や祖父母の介護、あるいは、老々介護の課題に直面しているかもしれません。先日、ある卒業生から竹田の健康状態

と健康維持に何をしているかを質問されました。

健康状態は、たまに風邪をひきますが、数カ月に一度行っている血液検査の結果も血圧やコレステロール、血糖値などいろんな指標は正常値の範囲内です。服薬は、リウマチの予防薬を毎朝一錠飲んでいただけです。数年前、同年代の卒業生で、毎日、二三種類の服薬をしていると聞いて驚いたことがあります。なお、視力については、昨年

から秋から辞書をひくとき老眼鏡か拡大鏡を使うようになりまし。新聞はまだ裸眼で読むことができます。運転免許は、裸眼ですが次の更新時が心配です。病院での定期的な健康診断は、歯科は二カ月ごとの予防歯科、循環器外科と内科と泌尿器科は六カ月ごとに健診、脳の検査は毎年、三〇歳代から、胃カメラ検査は毎年、大腸カメラ検査は二年ごとに行つてきています。循環器外科のM教授をはじめ、とても素晴らしい先生がたに恵まれていつも感謝しています。日常的に留意しているこ

とは、学生時代の体重のピークが、二年目の時、北大ボート部対抗エイト四番漕手でオリンピックをめざして朝と夕方五〜七時、毎日四時間、茨戸合宿所で練習をしていた時が七五kg(一二二cm)でしたので、それ以上にならないようにしています。そのため毎朝体重をはかります。最近

は、一五〜二〇分くらい、足と足指、手と指先、腹筋と背筋、声帯、舌、の運動をし、スクワット(就寝前)をします。

札幌市の高齢者クラブで配布されている「認知症にならないための生活―七つのポイント」というのがあります。一、散歩、二、新聞を声に出して読む、三、料理をする、四、日記をつける、五、社会と交流をもつ、六、電車・バスで出かける、七、恋をする、のうちいくつかを心がけています。一日、五千歩の歩きを目指していますので、電車・バスで出かけることは実現しますが、つい、車を利用して反省しています。世界の平和と諸国民の友好、人権と民主主義、共生をめざす社会活動

を継続し、研究調査も含め今年も東京四回、及び名古屋、一〇月には金沢への訪問も予定しており、昨年に続き今年もロシアを訪問して来ましたが、今年九月の人生の節目を元気で迎えられるよう心しております。

文系の学部を越えた同期卒業生の朝食会を毎月ホテルで行っていますが、そこで、高齢者になると、「キョウヨウ」と「キョウイク」が一層大切になると聞いて、なるほど、「教養」と「教育」はやはり重要かと思つていたら、なんと、「今日用」がある、と「今日行く」ところがある、ということでした。

(二〇一六年七月二〇日記)

今は昔(二)

一九六六年卒、教育史比較教育

逸見 勝 亮

◇二〇一三年に北大を辞し、目下北大大学文書館へ通っています。

ここ二年ほどの間に会った・見た卒業生の方々です。○は会った、または見た場所です。

黒長義広・増淵俊文・竹下忠彦・白取道博(黒長敬老会、渋谷駒形とせう)、村澤博美・大谷薫(ミニ大通)、安達輝政・木村雅一・高橋吾一・岡和孝(山田定市先生を偲ぶ会)、新山博子・玉井智佳子・谷雄一・家・佐藤公昭(デパ地下)、高田康一(北五条通)、明田川知美(医学部)、白取道博・山田敏之・朴仁哲(大学文書館)、岩本百合子(函館空港)、小野塚恒男・湊谷たえ子・金山聖子・稲垣伸子・塚本智広(同期敬老会、僕は故青木仁子さんの写真携行)、佐藤修二(札幌迎り)、依田紀子・福本駿・齋藤彰・松本伊智朗・山下直樹・竹下忠彦・池田裕子・西田麻子・川俣智路・上山浩次郎・上田敦・渥美智美・池澤奈緒・近藤健一郎・井上高聰・山本美穂子・安達潤(学内)、高橋俊郎(コンチネンタル・ビル)、向井一弘(NHKスポーツニュース)、馬淵安代(NHKニュース)、津野田亮子・マキ・智子(NHK道内ニュース)。

蛇足・逸見(NHKSP「カラーでみる太平洋戦争」クレジット、NHK「ファミリーヒストリー中川翔子編」で「品川弥十郎日記」運び役)。

◇一九五〇〜一九七六年まで、教育学部庶務掛に勤めていた齋藤モトさんが二〇

神話は山崩れた。

逸見勝亮「教育史学助手、記者会見」

河野

12月8日、講義終了後、私用い、逸見さんの部屋へ出かけた。ひとりで行くのは恐ろしかったので、安達くんについてきてもらった。

一四年八月一五日に逝去されました。享年一〇二歳でした。葬儀では三〇年振りに、かつて庶務掛におられた鈴木国夫さんにお目にかかりました。

◇似顔絵を描いたのは河野仁志さんです。旧知の大学院生は「似ていない」と。出典は一九七五年度移行生クラス新聞『もつと』第二号、発行日の記載はありませんが、一面に「概説の試験もはじまって……」とあり、一九六七年二月下旬頃の発行でしょうか。なお、創刊は一九七五年十二月一日、三号は発行をみませんでした。河野さんは、「逸見さん」といえば、日頃、諸先輩の間のうわさでは、何やかやと学生に論争をふっかけ、文句たらたらという挑発者であつかにくい人だというふうに聞いており、今こそその神話をぶつつぶそう、そして移行生に、全学部に彼の実際の姿を明らかにしようと思つた」と、「ジャーナリストの良心」を誇っています。「まとめ」には、「外見はいかにも偏くつとつつきにくく、学生いじめを唯一の楽しみにしているようだが、実際は、

かなりまじめな努力家らしい」とあります。

同じ号には、安達輝政・小野塚恒男・稲垣伸子さんが随想を載せています。

ちなみに、『もつと』第

二号は、大学文書館「北大生の群像―北大一五〇年の主人公たち」V「新しい時代への『Trial & Errors、1969』」に、学生各派のビラ、大学祭プログラム、高津守さん旧蔵ラグビー部ユニホームのエンブレム（エンレイソウ）等とともに展示中。

◇大学文書館には、一九八〇年代以降の学生に関わる資料がほとんどありません。受験票・合格通知・成績表・講義資料・ゼミ資料・クラス雑誌・学生運動・サークル活動・女子寮・北学寮等の学部寮・府県出身者寮に関する記録など、学生の日常を知ることができ資料を切望しております。下記まで御一報いただければ

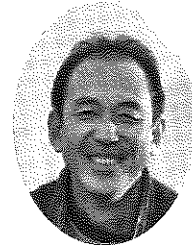
・北海道大学大学文書館：archives@general.hokudai.ac.jp、011-706-2395
・逸見勝亮：hemmi@edu.hokudai.ac.jp

◇折りあらばもそつとまじな似顔絵を載せましょうほどこに、みなさん御元気で。

日本初の

「教育立村」への

挑戦



一九九三年卒 体育方法
辻 英之

「痛快じゃないか！ こんな片田舎の小さなNPOが、全国を相手に闘っている姿が！」

私が今居住する村の首長の言葉である。長野県下伊那郡泰阜（やすおか）村。人口は一七〇〇人。国道も信号もコンビニもない絵に描いたようなへき地山村である。平成の自治体合併の特徴を、小さな地域の住民が政策決定に関わる場がほとんど遠のくことにあると見抜いた村長の松島貞治氏は「政策決定の場が遠くなるのであれば、合併すべきではない」と、合併を拒否した。私は今年、村長から

「泰阜村総合戦略推進官」を委嘱され、全国でも珍しいNPO（代表理事）と行政のハイブリッドな立場で活動している。

一九九三年、大学卒業と同時に泰阜村に移住し、NPO法人グリーンウッド自然体験教育センターの門を叩いた。当時のおおよそ「就職」とはいえない状況に始まり、今もなお多くの年取があるわけではない。へき地山村で生き抜くためには、北大の学歴などは何の意味もないことだった。教授陣や同級生はさぞや心配されたことと、今更ながらに思う。

このNPOは、一年間子ども達が村の小中学校に通いながら共同生活を行う山村留学や、夏休みなどを活用した自然体験教育キャンプを行っている。二〇〇九年から代表理事を務める。人口一七〇〇人の村にあって、二十人弱の若者スタッフを抱える職場は「大企業」だ。スタッフ全員が村に居住し、結婚して家庭も持っている。減少傾向かつ高齢化傾向のある自治会や消防団など地域を支えていた住民組織の担い手として

の期待にも応えつつある。まさに「教育」が地域再生の中心に位置付きつつある。

この村に来て二三年。なかなか理解をもらえなかった人に、ようやく「応援する」と言われた。なんとそれが、この六月のことだ。ようやく助走が終わり、スタートラインに立てるのかなあ、と思う。この「時間を掛ける」「手間をかける」「丁寧に進める」というのが大事なのだ。そんなタイミングで「総合戦略推進官」を委嘱された。

NPO代表理事として全国を駆け巡るが、同時にその言動には村の政策実現の責任も伴うことになった。それを重荷に感じるのか、可能性と感じるのかは大違いだ。少なくとも私は、このハイブリッドな立場を「可能性」として捉え、小さな村が教育によって自律するための方策を日々考えている。

私の職場であるNPOグリーンウッドは、今年で三十周年を迎える。積み重ねた暮らしの営みを見つめ直す、三十年経ったからこそ見えてくる風景があるものだな、と感じる。ここ数年で、山村留学の卒業生がIターンで泰阜村に定着するようになった。二九歳の卒業生が、昨年泰阜村役場に就職し、結婚して定住している。四二歳の卒業生も、夫婦で今春にIターンし、村の看護・介護士として活躍している。卒業生がIターンすることを、私は「Sターン」と言っている。

このSターンは、絵に描いたような定住施策である。もちろん、私たちは未来を創る人材育成を行う団体な

ので、卒業生が泰阜村に帰ってくるにだけがついて「成功」と思っているわけではない。卒業生は、泰阜村だけではなく、全国各地、世界中で、世のため

人のための行動を起こしてくるはずだ。そのためには、彼らを泰阜村から全国に「強く」送り出す必要がある。ブーメランをご存じ

だろうか。あれは弱々しく投げると途中で落ちてしまう。思い切り強く投げ出すからこそ、手元に戻ってくるのだ。この村は、高校・

大学がない。生まれて十五年でこの村を出ていく子がいるのだ。その時に、強く送り出せば、きっといつか村に帰ってくるだろう。

帰ってこなくとも、他の地につきと力強く着地するだろう（落ちるのではなく）。

この送り出すときの「強さ」とは、村の暮らしを土台とした教育の質だと思っている。生まれてから十五年間に、いかに村のこともたちに地域を愛する学びと育ちを保証したか、という「熱量」だろう。若者が目的をもって集う村になるには、村の持つ教育力が発揮され始めているからに他な

らない。村の大人たちが横に手をつなぎ（多様なセクターの参画）、縦のつながりを生み出す（多くの世代に学びがある）という村民組織「あんじゃね支援学校」（あんじゃねとは、案

ずることはないという意味の方言）の活動が、今年で十三年目を迎え、昨年末には表彰されるに至った。これまで村の人々が否定して

きた村の教育力が発揮され、UターンとSターンが戻り始め、役場職員は驚くほど若返りをしている。

立場や違いを超えて「学び合い」を繰り返すことを通して、泰阜村が自律的な地域になりつつある。これまで面倒くさいこと（たとえば行事の事務局）はすべて役場職員に任せきりだった村民が、役場に押し付けることなく自らの手で「学び」を促進する動きを作り

つつある。小さな村の教育力を、大学等の高等教育に活用しようと、村のNPO、村民、行政、大学、報道機関などが力を合わせて「泰阜ひとねる大学推進チーム」を今年発足させた。そして今、村内に若い女子大

学生が学ぶ姿が目立ち始めた。この村が大学になるなど、いったい誰が想像しただろうか。

た。この村が大学になるなど、いったい誰が想像しただろうか。

紡がれる泰阜村の教育力を、震災支援にもいかそうと村民たちは動く。今春発生した熊本地震で被災した

子どもたちを、NPOグリーンウッドが主催する夏の自然体験教育キャンプに招待する。被災地では、い

まだに続く余震に怯え、夜になると家に入りたがらず、一人ではトイレにも行けず

に両親にしがみつく子どもも多い。逃げ場のない大地震とその後続いた豪雨は、

元氣そうに見える子どもたちの心に深い傷を負わせている。阪神大震災、中越地震、東日本大震災、いずれ

の災害でも教育を通じた支援を続けてきた。それが、小さな村の身の丈にあった支援だ。熊本の子どもたち

を招待するキャンプに、五年前にキャンプに招待した福島のことでも高校生ボランティアとして参加する。

「恩返しだ」と彼は言う。被災した子どもが、時を超えて、被災した子どもを支える。支え合いの縁を紡ぐことを、私は「支縁」と言っている。泰阜村の教育

力は、支縁をさらに豊かにしていく。

不合理・非効率の名の下に切り捨てられてきた小さな山村が、「教育」をど真ん中に据えた持続可能な地域づくりを目指すという、

大きな挑戦が今、始まるように思っている。それは、泰阜村が教育によって立つことを意味する。誰もが不可能だと思っている「教育立

村」の実現。それが日本を再生する切り札になるのではないか。そんな可能性を心の底から感じる。

小さな地域同士の「支え合い・共助」、そして小さな地域の子どもの教育は小さな地域の住民が決める

「自己決定権」を発揮させたい。小さな地域のしみ出るように湧き上がる底力が日本と地域の教育を再生する日は近い。へき地から始まる教育改革はもうそこまで来ている。

驚くべき小さな村でがんばっています。NPO法人グリーンウッド自然体験教育センターで検索ください。お近くにお越しの際は、いつでもお立ち寄りください。

ターニングポイントとなった二〇〇五年を経て

北海道大学教育学院専門研究員

平成十五年卒・教育方法

朴 仁 哲

今回、須田力先生より教育学部同窓会誌に寄稿を促され、近況報告をさせて頂

きます。昨年、九年間の歳月をかけまして、念願した博士学位を取得しました。

拙文では博士論文執筆のきっかけや今後の抱負などについて紹介したいと思

います。

戦前、私の祖父母は朝鮮半島から中国東北地域（旧「満州」）に移民しました。

しかし、私は祖父母の「満州」移民の歴史について、二〇〇五年までは深く考え

たわけでも、意識してきただけでもなかったのです。故郷のハルビンが約一〇〇年前にロシアが東清鉄道を建設するために、莫大な投資をして一漁村でしかな

かったものから巨大な国際都市に発展させた都市です。ハルビンを語る時、人々はよく「東洋のバリ」と表現

しますが、ハルビンのなか

で生まれ育った私には、どうしてもハルビンは戦争のトラウマ体験と結びつきま

す。ハルビンの外れに位置している平房には、「満州国」時代、関東軍の細菌部隊であった七三一部隊が駐

屯していました。現在、その施設は陳列館となっています。叔父（父親の弟）の家が平房にあり、幼い頃に叔父について一度遊びに行

きました。叔父の家は施設のすぐ近くにありました。当時、叔父の言葉で細かいところまではよく覚えてい

ませんが、戦争時代、その建物のなかでは生きた人間を使つて実験して殺したのだと叔父が説明したことを微かに覚えています。子供

の時から戦争とは人の無残な死と関係していると漠然としながらも理解し、戦争

を忌み嫌うことになりました。平房や叔父の家に行くことを、私は二〇歳頃まで拒み、二〇〇五年まで私は「戦争」という言葉を聞くこと自体を意識的に避けて

いました。

二〇〇五年四月、戦後六十周年という節目の年に韓国と中国で激しい反日デモが起きました。どうして直

接植民地や戦争を体験して
いない若者たちが激しい反
応を示すのか。その疑問と
問いを持ちながら、二〇〇
五年六月にあるスポーツ交
流の機会を得てサハリンに
行ってきました。サハリン
での滞在期間中、偶然で
あったがサハリン在住のコ
リアンに出会いました。テ
コンドー協会の会長、大学
の食堂で働くおばさん、大
学生、実に多くのコリア
ンに出会いました。行く前
からサハリンにもコリアン
が住んでいることは知って
いましたが、実際に会った
際の衝撃は強かったです。
その時から「なぜ、コリア
ンが朝鮮半島、日本、中国
をはじめ、ロシアまで広範
囲に暮らすことになったの
か」という疑問が大きき膨
らんでいきました。

サハリンから日本に戻つ
た後、二〇〇五年八月に日
中青少年スポーツ交流事業
の通訳として、十数人の日
本の青少年たちを引率して
中国に行ってきました。出
発前の父母説明会では、
「この時期に子供たちを中
国に行かしても大丈夫なの
か」「どうして中国で反日
デモが起きたのか」などに

ついても説明を求められま
した。しかし、戦争問題を
意識的に避けて言語・文化
に拘って学んでいた私は、
その質問に対してはうまく
説明できませんでした。そ
の時、顔が赤くなるほどの
恥ずかしい思いをしました。
日本に留学した後、大学の
学部時代から積極的に国際
交流に参加し、二〇〇二年
の日韓共催のワールドカッ
プでは外国語ボランティア
として参加し、国際交流の
一環を担ったとの自負から
達成感と高揚感があり、将
来は職業として国際交流に
携わっていきたくと考えて
いた頃、韓国と中国での若
者たちの激しい反日デモの
様子をテレビで見えて落胆し
ました。その時から「過去
の歴史も知らないで友好を
語ることができるのか」と
いう問題意識が芽生え、

「平和で仲良くするために
は、平和ではなかった時代
の歴史から知る必要があ
る」と思い至りました。二
〇〇五年の二つの国際ス
ポーツ交流事業に参加した
ことを契機に、移民問題と
戦争問題に迫りつき、植民
地と戦争を体験した日中韓
に関わる世代に話を聞くこ
との必要性を考えるようにな
り、調査対象者を朝鮮人
「満州」移民体験者（以下
「移民体験者」）に絞りまし
た。フィールドワークの場
所を中国東北地域に選定し、
研究をスタートさせました。
歴史学、社会学、人類学
などが専門分野でない私が
この膨大な研究テーマにと
りかかったのは、無謀だっ
たかもしれないと幾度か挫
折しそうになりました。一
時期、体調を崩しまして、
苦勞して集めた資料をだい
ぶ処分しまして、研究を断
念することも考えました。
恩師や家族、そして多くの
方々の理解と応援を受けて、
なんとか博士論文の完成ま
でこぎつけることができました。

多くの移民体験者はエス
ニック新聞、中国のテレビ
番組、韓国のテレビ番組、
そしてインターネットなど
多くのチャネルを駆使し
て、批判的な目で情報を貪
欲的に収集していました。
植民地と戦争を体験した移
民体験者たちは、感情的に
なることも声高に叫ぶこと
もほとんどなく、淡々と過
去の歴史を語りました。不
思議なことに、移民体験者
たちの体験を聞く度に希望
が見えてきます。移民一世
たちが体験した絶望の時代
をもう一度繰り返さないこ
とが、私の希望です。
人間を相手とする研究は、
やり甲斐はあるが辛いもの
でもあります。移民体験者
たちはほとんどが八十歳後
半を超えており、その経験
を次世代に詳しく語ること
なく生涯を終えていきます。
実際に私がインタビューし
た事例のなかで、すでに三
十数人が亡くなっています。
移民体験者たちから受け継
いだ記憶を次の世代に繋げ
るように可能な限り尽く
したいと思います。日中韓
の政府レベルのギクシャク
した関係が長く続き、文化
交流や経済交流などの領域
まで影響を及ぼし、お互い
の国民感情まで悪化してし
まいました。

二〇一一年に北大北京オ
フィスに務めていた際、あ
る中国人研究者と対話した
ことがあります。その方か
ら「日中関係は動脈硬化に
なったようだ。私たちは毛
細血管を疎通する役割を果
たさなければならぬ」と
いう比喩的な言葉を頂き、
印象深かったです。

語らなくていいの

加藤 多一

童話作家

日本人が始めた戦争につ
いて―世界にあった戦争に
ついて―今も続く戦争につ
いて―戦争に傾く政府につ
いて―語らなくてもいいの
でしょうか。

私は一九五八年教育史
コース卒業、八十二歳です。
戦後七〇年に当たって、
エッセイ集『兄は沖繩で死
んだ』（高文研）を出版し
ました。

大げさに言えば、五十年
間体の中にためこんでいた
思いを、天皇制教育を叩き
こまれた体の生理的反応を、
ひとつの生体実験報告とし
て、なんとか書き綴ったも
のです。

亡兄の「戦友会」や「北
海道沖繩会」にも何度も出
て話を聞き、生きのびた人
たちと語りあいました。

「戦友会」についての感想。
不思議な状況をまざまざ
と見ましたよ。戦争や当時
の政府・軍閥への反感を語
るけれど、現時点での反感



第一回日中韓の観光大臣会議
(札幌) に通訳として参加

活動は決してしない。それどころか反戦活動をする人々を嫌っている。

これ、何なのでしょう。

私としても「兄は死にました」「靖国神社の思想はおかしい」「戦犯を合祀している神社を政府のトップが参拝しているのか」——この本の中にこれらのことを記述することに、始めはためらいがありました。

会員の皆さんも同様ですが、大学教育を受ける機会を与えられ日本育英会の世話になって戦後を生きてきた一人の老人として、事実を語り、若い人々に伝える「責任」があると痛感しています。

語らない人、口をつぐんでいる人はいったい誰に遠慮しているのでしょうか。

「同調指向」あるいは「同調強制力」が強い日本人の社会。この場合、最大の被害者は教室の子供たちでしょう。

「考える子」「意見を持っている子」は教室では生きられない。それを大人社会が作っているというのに、大人の側が「沈黙してしまふ」のは、どういうわけなのでしょう。

以前「日の丸・君が代」強制が始まったころ、心ある誠実なある校長が私に言いました。

「ばくも強制反対だけど、先輩後輩の校長の立場があるからモノ言えないのさ」
現職の場合はそういうこともあるでしょうね、と私も納得した。わかる。わかる。

私は共産党に入ったことは一度もありません。しかし、共産党というだけで毛嫌いな人は嫌いです。こういう人はほとんど差別主義者といってもいい。身体障害者、精神障害者、生活保護受給者、性的マイノリティ、などへの差別感を持っている。

アイヌ民族・在日朝鮮半島出身者をも差別の眼で見ている。

私自身、他者に説教したり、我一人正しいとぞびているつもりはありません。

ただ、ひとりの老人として、歴史も現実も、ホントウのことを知りたい。知りたい。だまされたくない——と考えている哺乳動物の一匹です。

「北大教育学部事務部雑感」

教育学部事務部庶務担当係長

小島 清 志

「北大教育学部事務部」のことを皆さんご存じですか。学生の方なら履修届とか証明書の発行手続きなどで窓口を訪れたことがあるかも知れませんか。昨年、改修

工事を行って窓口が立派になりました。このように大変良い雰囲気です。

さて、その事務部ですが学部の管理棟一階にあります。事務部は総括する事務長と庶務・教務・会計の各担当、それから研究棟の西側にある図書室（図書担当）で構成されます。平成二八年七月一日現在、教育研究支援室や事務補助員や研究員等含め二二名が在籍しており、本学部の教育研究支援体制を形成しています。

自己紹介が遅れました。この文章の筆者の庶務担当小島と申します。北大のことを知らずに関東からやって来て五年。また、この教



育学部のことを「全く知らず」に来て三年目の若輩者です。生まれは「昨年亡くなった高倉健さんと同じ福岡県の出身です。そんな遠方からの、間違いなく「外様」であるわたくしにも、ここ教育学部は、居心地良さを感じる、懐かしい場所とでも言いましょうか、そんな気分をいさせてくれます。おそらくここは先生も学生も「人」がいいのでありましょう。人を造っている「教育学部」。これからこのままで流れていてほしいと思います。

今、手元に「写真でつづる教育学部50年」という本があります。この本で昔の教育学部の様子が分かります。かつて「教員」と「職員」が今以上に協働していたことが見て知ることができます。例えば「教職員アスレチック大会」とか「学部教職員ボウリング大会」など今では考えられない企画があつたりします。これを読むと、我々の先輩方は仕事もするし、飲んで騒いだりもして、和を重んじているなあと思いました。わ

たくし自身は「ボウリング大会の復活を！」などとは微塵にも思っていないませんが、「教員」と「職員」とが出来るだけ離れないようにしなければならぬと思っています。両者が出来るだけ融合しつつ共存できればなあという感想です。

これを読んでいる皆さんはあまりご存じないと思いますが、はつきり言いますが事務は「多忙」だと思います。もちろん先生方も同じかと思いますが、現在、大学という組織全体に「新たな大きな動き」が起こっており、いくつか進行しています。国際化、評価、国際大学ランキング……。そうした「新たな大きな動き」のため事務職員も個別の勉強が必要なのですが、日常の業務のルーティンもこなさなければならぬというジレンマ。毎日、事務局から仕事の依頼のメールがポーンと届けばその処理を進めないとならない。それが日に何本もメールが届くのでその対応に追われる日々。また、一方で学部の先生や学生から質問や問い



2014年アウシュヴィッツ学習の旅にて



合わせがあれば対応せねばならない。が、それも抜かりなく、一つ一つを疎かに出来ない。手を抜くと投書される、SNSで吊し上げられる、丁寧に、丁寧に……。こうした緊張感の中で事務職員は日々業務を遂行しているわけです。

ちよつと愚痴っぽくなり

ました。それはさておき、

ここでは先ほども言ったように私のような者でも居心地のよくなるこの北大教育学部に、同窓生の皆さんも時間を作っていただいて寄ってみてくださいという提案をします。その機会の一つですが、北大では例年九月の最終週末に「ホーム

カミングデー」というイベントを行っております。教育学部は文系四部局と合同でシンポジウム等を開催することとしており、今年度は本学部が企画するシンポジウムであります。詳細についてはこの会誌の別頁に掲載しておりますので、是非ご覧いただき同窓生の皆さん足を運んでいただけたらと思っております。

今年六月に北海道大学校友会エールが発足しました。詳細は別に譲りたいと思いますが、この組織により、今後同窓会の役割が北大の発展に繋がるものと期待されています。

そんな中で不肖小島、い

つまでこの教育学部に関わるか分らないのですが、

「教職一体となり、北大を、それから教育学部と学生たちを盛り上げていく。これがわたくしの仕事を進める上での現在のキーワードです。これからも側面及び後方支援に微力ではありますが力添えをさせていただきます。そして今後刊行されるであろう「写真でつづる教育学部100年」において、事務部のみんなも教員の皆さんと一緒に「教育学部の記憶」として掲出されるようにと思う次第であります。

特別掲載

昨年の同窓会出欠はがきおよび同窓会費などの振り込み時に近況報告していただいた方々の声をご紹介します。なお、ほぼ一年前の「近況」を原文そのまま掲載いたしますので、ご了承ください（順不同、敬称略）。

○恩師が次々に逝去され、さびしくなりましたが、私はもう少し生きてみようと思います。元気です。

伊藤 則博（62年卒）札幌市厚別区

○在学（在院）中はお世話になりました。現在は高校1年の担任として勤務中です。

竹内 鉄雄（15年卒）札幌市厚別区

○北大交響楽団とともに60年、現在83歳。若者と一緒にいるのが良いのでしょう。

実際の演奏の中から西洋音楽の手の内もわかってきました。ボヘミアンのシユーベルトのことも。この後はどうなるのか、神のみぞ知ります。

川越 守（56年卒）札幌市南区

○65歳の節目に（間もなく66歳ですが）一度出席しようという気持ちはあるので、前回の週が結納で東京、翌週は急な仕事でフランスに行くことになり、今年も時間がとれません。もう少ししたら予定もなくなり、楽しみにする日も来るでしょう。

秋元 義禮（73年卒）青森県弘前市

○ご案内ありがとうございます。後期高齢者、我が身ながら意のままになりません。会の発展を祈っております。

ます。

花田 徹夫（31年卒）札幌市東区

○宝の孫3人で間もなく傘寿を迎えます。体調と酒の量はまずまずです。自己流の「自分史」を多数コピーして満足しています。ご盛會を祈念します。

安楽 鉄男（61年卒）北広島市

○「同窓会だより」楽しく拝見しております。私をこよなく愛してくれた師の恩を、年齢を重ねるにつれ、深く感じております。86歳。

黒川 昭和（55年卒）

○今年、地方文芸誌としては珍しいと言われている「余市文芸」創刊四十周年記念号が発刊されました。特集記事は「マッサンとニッカウイスキー」ですが、私の投稿した随筆「ダビデの神事について」をその片隅に載せていただけました。ことの勢いで最近論評「イエスの復活の周辺」と題し、執筆を楽しんでいます。

吉田 誠吾（64年卒）余市郡余市町

○同窓会長・竹田氏の報告気に入りました。同期の絆を感じます。

高木 哲郎（59年卒）千

歳市

○教育学部を卒業して半世紀を越えました。もう少し今の仕事（フリースクールなど）をやっていきたいと思っています。大学時代に身につけた教育の理念がやっぱり心から離れないですね。

亀貝 一義（60年卒）札幌市西区

○今年の3月に担任として卒業させた生徒が、北大教育学部に入學しました。次はぜひ自分の所属していた陸上部に生徒を送り込みたいと部活指導に明け暮れています。

渡会 雅明（89年卒）函館市

○晴耕雨読、日々是好日。年数回、国内旅行をエンジョイしています。盛會と諸兄のご健勝をご祈念申し上げます。

常本 勇（55年卒）札幌市北区

○学部は別々ですが、教養部時代に同クラスだった5人と年に4回、都内で集まり、旧交を温めています。おかげさまで、健康を維持しています。些少ですが、北大フロンティア基金に協力させていただきます。

市北区

橋爪 幸正 (61 年卒) さ
いたま市

○道立高校で英語教員として
高校生たちとかかわり、
18 年になつています。かつ
て担任としてかわつた卒
業生で、北大教育学部で学
んだ人がいます。

徳長 誠一 (98 年卒) 北
見市

○80 歳を超えると「転ぶと
骨折」の証拠を残します。
「身体は自由に使える」人
は、今のうち英知を集め、
人々の苦しみを軽くしてく
ださい。

鈴木 明子 (55 年卒) 京
都市

○前回は「次回に出席」と
書きましたが、雑事に追わ
れて欠席。あのころ知つて
いた先生方の計報、ご冥福
を祈ります。

鈴木 尚 (56 年卒) 京都
市

○コップさつぽろで勤務し
ています。山田先生はじめ
鈴木先生、高山先生と、学
生時代お世話になつた先生
のご計報、残念です。

小松 均 (84 年卒) 札幌
市手稲区

○敗戦時 15 歳、この夏の国
会討論を聞き、日本の将来
を案ずるこのころです。社

会的な生活空間は縮まりまし
たが、自由で自立した生活
を楽しんでいます。友人の
逝く知らせはつらいですが、
老後もまた楽しです。

忍 博次 (54 年卒) 江別
市

○学生時代の情景は、今も
鮮やかなのに、いつの間
にか 50 代も後半になつてしま
いました。懐かしい先生方
の計報に接し、時の流れを
思います。

井沼 淳一郎 (82 年卒)
大阪府狭山市

○2 冊目の本を出版しまし
た。興味がわいたら一読し、
コメントをください。
「ファンタジー物語で学ぶ
心身健康科学」グミと僕の
縄文物語」(丸善プラネット
2015 年)

長根 光男 (76 年卒) 埼
玉県比企郡鳩山町

○学校法人北星学園・学園
長の任について 4 年目にな
ります。教育担当のため、
学部での学びが役に立って
います。

酒井 玲子 (65 年卒) 札
幌市南区

○大変申し訳ありませんが、
別の会があります。会報も
1 カ月前に配達されて、大
変結構です。会長、幹事さ
ん、ありがとうございます。

多米 豊 (54 年卒) 札幌
市西区

○同窓会だよりありがとうございます。
4 団体の役員
としてボランティアをして
おりますが、社会のために
役立っているのかは不明で
す。

鈴木 陽一 (53 年卒) 札
幌市南区

○卒業以来、はや半世紀。
「安保」はまだ大変なでき
ごとになりました。愛され
ないエンブレム問題はご破
算になりましたが、愛され
ない。総理はどうかの
でしょう。「計報」で懐か
しい先生方の状況を知りま
した。道又、三宅両先生に
は教わりました。ご冥福を
お祈りします。また、かつ
ての先生の情報・業績等も
載せていただけませんか。

徳勢 正昭 (65 年卒) 横
浜市

○同窓会だより (2015
年版) では、在学中お世話
になった諸先生の計報が掲
載され、ご冥福を祈るのみ
です。私も常勤体制を離れ、
少々自由の身となりました。

国吉 昌晴 (66 年卒) 西
東京市

○今年の「同窓会だより」
の計報を見ると、卒論指導
教官の道又先生をはじめ、
高山先生、狩野先生、そし
て鈴木秀一先生と教えを受
けた先生ばかりです。四十
数年の星霜を感じます。諸
先生のご冥福を心からお祈
り申し上げます。

鈴木 泰 (71 年卒) 北広
島市

○教育史学会と重なり不参。
相変わらず図書館へ日参し
ております。僕が呼びかけ
人となつて卒業生の敬老会
(一度は黒長義広、竹下忠
彦、増淵俊文、白取道博の
もう一度は稲垣伸子、金山
聖子、小野塚恒男、湊谷た
え子、塚本智宏の) を強行
しました。

「今は昔」の続編の用意
はあります。黒字になつて
よかったですね。

逸見 勝亮 (66 年卒) 札
幌市中央区

○遠くにありて思うものに
なつてしまいました。来
年あたりはあのださわやかな
構内の緑にふれてみたいで
す。昨今は三味線グループ
でボランティアにはげんで
おります。

益村 欣照 (62 年卒) 千
葉県流山市

○故郷離れ 32 年。春から 1

年の 3 分の 2 が夏である沖
縄で生業を続け、すっかり
雪のない生活にはまってい
ます。会報で知った恩師の
方々の計報に驚きつつも、
人間教育の原点を教えられ
たことに気づきました。人
生に定年なしですね。

村尾 博司 (82 年卒) 沖
縄市

○いつもご苦労さまです。
阪神・淡路大震災祈念人と
防災未来センター勤務も今
年で最後です。

古本 尚樹 (01 年卒) 札
幌市北区

○同窓会だより楽しく読み
ました。それにしてもすご
い変わりようですね、北大
は。また、山泰介氏 (秀一
先生) の俳句、素敵ですね。
木村 保茂 (66 年卒) 札
幌市中央区

○在学中、卓球部に在籍し、
卒論に「スポーツにおける
価値の考察」という論文を
書き、先生方には大不評で
した。しかし今年 6 月、卓
球部 OB 会 50 周年で、その
内容を現役部員の前で話す
機会を与えられました。昨
年 9 月「敬語と梅園哲学の
評価」という本を出しまし
た。卒業後、教育基本方改
悪反対闘争に取り組み、現

在も「日君」強制反対、道
徳教育化反対、安保法制反
対などの闘争に取り組んで
います。鈴木秀一先生には
お世話になりました。

渡部 秀清 (72 年卒) 東
京都杉並区

○卒業して半世紀となりま
した。62 歳から始めた北大
構内でのジョギングの日課。
10 キロ、ハーフマラソンと
クリアし、今年 2 月の東京
マラソンに当選しました。
苦節 10 年、夢の 42・195
キロを走り、感動のゴール
でした。ジョギングのおか
げか、まだ中学校で時間講
師、今年学部卒の新任教員
と同じ職場となり、机を並
べて仕事をしています。

遠藤 勝彦 (67 年卒) 札
幌市中央区

○健康にて過ごしています。
千葉 俊亮 (59 年卒) 札
幌市厚別区

○仕事のため残念ながら欠
席させていただきます。保
育園で働いているので、家
でも子供たちに囲まれ、に
ぎやかな毎日を送ってい
ます。

赤塚 (旧姓・西山) あか
ね (02 年卒) 川崎市

○「同窓会だより」をお送
りいただきありがとうございます。

赤塚 (旧姓・西山) あか
ね (02 年卒) 川崎市

○「同窓会だより」をお送
りいただきありがとうございます。

赤塚 (旧姓・西山) あか
ね (02 年卒) 川崎市

赤塚 (旧姓・西山) あか
ね (02 年卒) 川崎市

います。「計報」欄はお世話になった先生ばかりで、切なくなりました。3月には逸見先生を交えてゼミ仲間と札幌で飲みました。教育学部は最高です。

小野塚 恒男(78年卒) 新潟市

○体調不良につき欠席いたします。

平澤 寛(56年卒) 札幌市南区

○卒業後はメディアの世界で四十年を過ごし、64歳でパリへ行き、画家の道を歩んできました。次の個展は2016年12月、東京・八重洲で予定しています。

武田 光弘(60年卒) 東京都杉並区

○健康科学ゼミで医療従事者として考え方の幅を広げることができました。河口先生が退職され、大変さびしいです。

柳澤 三枝(12年卒) 札幌市東区

○卒業して10年以上たちますが、40歳を前にしてあらためて学ぶことの大切さを実感し、資格取得の勉強等に励んでおります。

新田 健太(01年卒) 滋賀県栗東市

○頭の体操に囲碁と読書、

身体 の 体操 に 週4〜5回 (1回8000歩) のウォーキング、週1回(約3時間)の卓球、週1回(約3時間半)のパークゴルフ、そして3カ月に1度の健診、忙しいことこの上ない生活を楽しんでいます。

葛岡 誠一(67年卒) 札幌市清田区

○斎藤幹事長さん、いつも「同窓会だより」ありがとうございます。同窓会の皆様のご活躍に後押しされ、私も生涯現役の気概を持って新しいテーマに取り組んでいます。

北守 昭(76年修士修了) 札幌市北区

○毎回「たより」楽しみにしています。昨年に引き続き、区で生活保護の仕事をしています。今年度から生活困窮者自立支援法の相談支援が始まり慌しくしています。

田中 稔久(83年卒) 神戸市

○札幌で変わりなく過ごしています。

菅 洋一(06年卒) 札幌市豊平区

○今、通信制高校の講師を務めさせていただいております。子供たちとのコミュニ

ケーションには苦勞しております。

阿部 剛康(91年卒) 釧路市

○今年は札幌には行けないようです。早く新幹線ができて、空との価格競争をしていたきたいと願っています。

杉山 昌夫(83年卒) さいたま市

○当日、他支部の教研に出ていて札幌にいません。欠席します。小学校教師を続けているうちに、いつの間にか作文を続け、北海道の作文の会を預かっています。昨年2014年には作文の会の全国大会を逸見先生の力添えをいただき、北大で開かせていただきました。自分がお世話になった大学で大会を開くことができた幸せ者です。ありがとうございます。今年は5年生39人を受け持つて七転八倒です。

大原 雅樹(80年卒) 札幌市西区

○今年は「戦争法案」の闘いで大忙し。私たちの学生時代も「安保闘争」の時代でした。おかしな国です。

白樫 久(65年卒) 札幌市北区

○近年、大学院には中国からの大学院生が多くいらつしやり、私は漢詩の世界から、雄大な大地に吹く風を感じ日本の風土との違いを楽しんでいます。好きな詩を心境に合わせて書きました。祝盛会。

秋思張籍

洛陽城裏見秋風
欲作家書意万重
復恐忽忽說不尽
行人臨發又開封

澤田 麻理(13年修士修了) 札幌市中央区

○日本の憲法9条は世界の宝と実感します。戦争のない地球を次の世代に残したいと願って暮らしています。

森谷 繁(名誉教授、薬学部卒) 編集子) 札幌市東区

○鬼籍に入られました先生方のご冥福お祈りいたします。在学中、また卒業後も格段のご指導をいただきました。感謝の気持ちを含めて手を合わせていただきます。

斎藤 張樹(69年卒) 埼玉県志木市

○11月で65歳になり、味の素(株)を退職します。

牛島 康明(74年卒) 千葉市

○3年前に北海道教育大学札幌校を定年退職、現在は特任として仕事を継続しております。

森 範行(72年卒) 札幌市東区

○いつも出すのが遅くなりすみません。来年は還暦となりますが、竹田先生、逸見先生、これからお元気でご活躍ください。

小松 秀樹(79年卒) 川崎市

○卒業してからもう少しで25年となります。ゼミでお世話になった鈴木秀一先生のご冥福をお祈りします。

林 孝幸(91年卒) 札幌市北区

○大阪に住んで20年目になります。元気にしております。

中川(旧姓・尾方) 文子(89年卒) 大阪府大東市

○先日参加しました「日本教育学会」では次年度大会を北大開催との案内がありました。教育学部のますますの隆盛を祈念致します。

遊佐 順和(15年卒)

○小書「教育の機会均等に挑む」を上梓いたしました。

市澤 豊(03年DC修了)

○教育学部では産教ゼミ室

を中心とした様々な思い出の中で、有意義な学生生活を送りました。北大を卒業して大手通信系のメーカーに入り34年も経ちますが、母校への誇りと貴重な学生時代の経験を常に宝として持ち続けてきました。そして又ホームカミングデーに母校を訪問できる事を、大変嬉しく思っております。

佐々木 秀之(81年卒)

○8月23日、第41回北大同窓ゴルフ大会があり、小島忍、田尾直之、山本哲二、吉田敏博、堀川素人の各氏と参加しました。文系4学部が団体戦で優勝しました。毎年8月第4週の日曜日に開催されますのでご参加ください。

高山 幸一(74年卒)

○8月はお盆の月でもありますが、鎮魂の月です。今年には原爆投下、敗戦70周年、テレビでは戦争や原爆に伴う多くの死者や遺族に対する鎮魂・追悼の特集番組が放映されました。いずれの式典でも、じっと悲しみや怒りに耐えている遺族席の加齢が著しいと思いました。昭和20年8月15日、私は国民学校6年生でした。

大居 健二(57年卒)

会計報告 (H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31)		会務報告 (H27. 8. 1 ~ H28. 7. 31)	
収 入 の 部		支 出 の 部	
前期繰越	244,981	懇親会費 (H27)	45,673
懇親会費 (H27)	45,673	会報作成発送費 (H27)	255,377
懇親会余剰金	2,327	通信費・発送費	27,139
会費等収入 (料金相殺)	412,630	雑費・消耗品費	3,448
雑収 (銀行利息)	39	慶弔費	0
		交際費	6,000
		卒業式協力費	20,912
		交通費	4,800
		次期繰越	342,301
合 計	705,650	合 計	705,650

*繰越内訳

郵便振替残114,138 円

銀行預金残228,163 円

合 計342,301 円

期 間	会 務 次 項
H27. 8. 20	平成 27 年度 会報発行。
H27. 9. 26	北大ホームカミングデー
同日	文系 4 学部合同シンポジウム
同日	平成 27 年度同窓会総会
同日	文系 4 学部合同懇親会
H27. 11	H28 の合同シンポジウムにつき、学部と同窓会の打合わせ開始。
H28. 1. 12	役員・幹事にリテラ・ボプリ発送。
H28. 3. 24	北大学士学位記授与式。竹田会長と齋藤幹事長が出席。
	アレンジメントフラワーとビールを贈呈。
	学年幹事は、藤田 真由 (フジタ マユ) さん、新保 貴規 (シンボ タカノリ) さん
H28. 5. 19	平成 28 年度 幹事会開催。
H28. 6. 1	北大連合同窓会会議。竹田会長と齋藤幹事長が出席。
同日	北大校友会エルム発足
H28. 6. 21	役員・幹事に議事録発送。
H28. 6. 22	ホームカミングデー文系 4 学部合同行事打ち合わせ開始。
H28. 7. 1 ~ 8	竹田会長、小内学部長がパネリスト表敬訪問。

- H28 会則改定案
- 平成 28 年度版同窓会名簿予約受付開始
- (現 行) (役員)
- 第 8 条 本会に次の役員を置く。
- 会 長 1 人
- 副会長 若干名
- 幹事長 1 人
- 幹 事 原則として各卒業年次ごとに 1 人
- 会計幹事 2 人
- (改定案) (役員)
- 第 8 条 本会に次の役員を置く。
- 会 長 1 人
- 副会長 若干名
- 幹事長 1 人
- 副幹事長 若干名
- 幹 事 原則として各卒業年次ごとに 1 人以上
- 会計幹事 2 人
- ・平成 28 年度版の同窓会名簿 (平成 29 年 3 月卒業・修了者データ含む) の予約受付を開始します。
- ・前回発行部数は 388 冊で、3,800 円 (送料込み) でした。
- ・今回は最少部数を 200 冊とした場合、予定価格 4,500 円 (送料込み) となります。
- ・予約部数が 200 冊を上回ると、価格が下がる見通しです。
- ・逆に、200 冊を大幅に下回ると、発行を断念することもあり得ます。
- ・ご希望の方は、会報に同封の注文専用ハガキにて、学部に返信をお願いいたします。
- ・発行は、平成 29 年 6 ~ 7 月を予定しております。

△編集後記△

昨年の会報にて、お世話になった先生方の計報をまとめて掲載した所、多くの反響を頂きました。惜しまれつつ亡くなられた先生方の遺志を、教え子の一人としてどのようにして受け継いでいけばよいのか、改めて思いを強くしました。

さて、今回の会報の編集に当たり、大きなテーマが二つありました。一つはホームカミングデーの文系四学部合同シンポジウムの幹事が教育学部で、準備を重ねて来ましたので皆様に周知して参加を促すことです。もう一つは、同窓会名簿の発行を決め、予約受付を開始することをお知らせすることです。

合同シンポジウムに関しては、会報裏表紙に印刷しているように、北海道で活躍中の著名な同窓生をお招きしてパネルディスカッションを開催します。是非多くの皆様のご参加をお待ちしております。

名簿の発行に関しては、役員・幹事会で議論を重ねて参りました。前回の発行部数は三八八冊で、今回はそれを下回ると思われます

が、業者さんとの打ち合わせの結果、最少部数で二〇〇冊を越えれば発行できるとの結論になり、今回の会報に合わせて予約注文を受け付けることにしました。

予定価格は部数二〇〇冊で、一冊四、五〇〇円 (送料込み) です。予約数が増えれば価格は下がる見込みです。ただ、予約数が二〇〇冊を大幅に下回るようでしたら発行を断念することもある事をあらかじめご了承ください。

今回も多くの皆様に寄稿していただき、編集担当として感謝にたえません。久方ぶりの逸見先生の一文はいかがでしたでしょうか？

今回は特に、加藤多一さんには、道新に紹介された著書『兄は沖縄で死んだ』(高文研) に衝撃を受けた私が無理をお願いして、寄稿していただきました。思うところをそのまま書いて下さいとお願いをしたものです。

私事ですが、私の父は兵士として終戦直前の室蘭空襲と艦砲射撃のただ中にいて命が助かった経験があります。父のすぐ上の兄は、

去年両陛下が慰霊訪問されたペリリュー島で戦死しました。母方の伯父は、特攻隊員として訓練中に終戦を迎えました。もう一人の伯父は、満州から命からがら逃げ帰ってきました。また、実家の近くに陸軍の小さな練習飛行場があり、多くの若者が訓練を終え、沖縄方面に特攻出撃して戦死しました。実家は彼らに宿舎を提供していたために、写真が今も残されています。

そんな思いから、加藤さんに是非とお願いをいたしました。

最後に、昨年の会報の記事に訂正があります。道又健治郎先生の計報の文責を木村保茂先生とお知らせしてしまいました。正しくは上原慎一先生の誤りでした。関係各位にご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。

では、同窓生の皆様のごますすの健勝を祈り、編集活動を終了いたします。

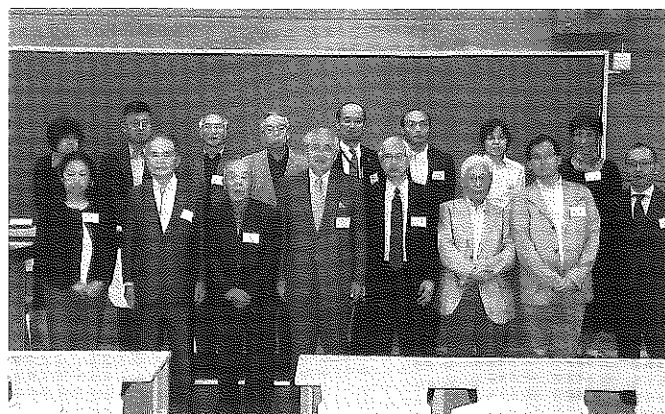
(七月三十一日 齋藤 彰)

トピックス

〈2015.9.26 ホームカミングデーにて〉



合同シンポジウムの模様



総会にて

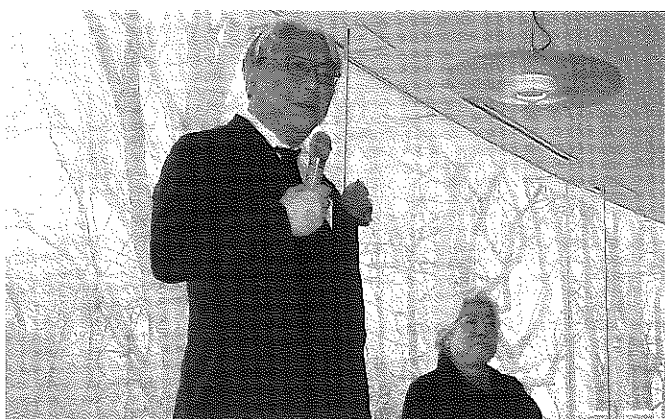


合同懇親会にて



合同懇親会にて

〈2016.3.13 名誉教授の小出達夫先生の喜寿お祝いの会にて〉



アットフロンティア
卒業生登録システム《@Frontier》にご登録ください。

卒業しても、ずっと使える。
hokudai.ac.jp
生涯無料

hokudai.ac.jpドメインのメールアドレスは、北大卒業生の証。
PC・ケータイ・スマートフォンから、メールをはじめとする各種サービスが利用可能です。
北大を卒業しても、
@Frontierで他の卒業生や北大とつながりましょう!

利用資格は北大卒業生。
利用料は無料。

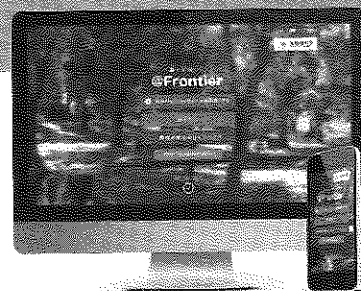
生涯にわたり
メールサービスが利用可能!

オンライン上で
会員検索ができる!

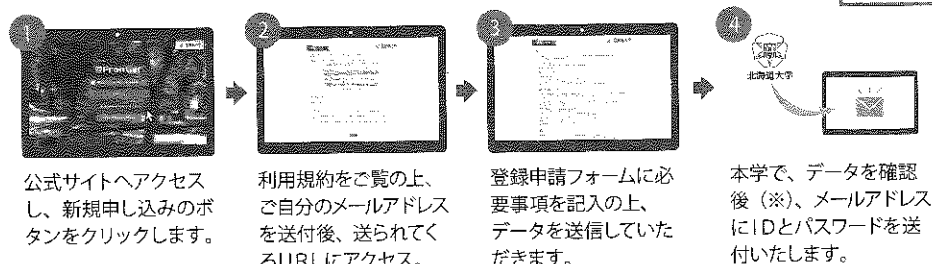
「私書箱」機能も利用可能!

公式サイトから登録可能です
<http://www.hokudai.ac.jp/frontier/>

スマートフォンからも
アクセス可能です!



※1週間から10日程所要する場合がございます。



北大との絆をつなぐ一枚



UCカード株式会社
北海道大学カード



三井住友カード株式会社
北海道大学カード

申込み

UCカード利用ページから申し込み

UCカードサイト
新しくカードを作る
UCカード一覧
北海道大学カード

<https://www2.uccard.co.jp/card/lineup/hokudai.html>

三井住友カードページから申し込み

三井住友カードサイト
カードをつくる
カード一覧
北海道大学カード

<https://www.smbc-card.com/nyukai/affiliate/hokudai/index.jsp>

北海道大学
同窓会

専用申し込み用紙を送付いたしますので、下記宛にお名前・ご住所をお知らせください。
カードは、お申し込みから約1ヶ月後に、カード会社からご自宅にお届けします。

北海道大学カードが北大生を支援する仕組み
北海道大学カードへの入会による取次手数料及びカード利用額に応じた提携手数料がカード発行元の北海道大学連合同窓会に還元され、これを「北大生支援資金」として北海道大学に寄附し、「奨学金」、「留学支援金」、「課外活動への費用援助」等に役立ててもらうこととしています。

北海道大学カードが北大生を支援する仕組み

北海道大学カード

本学卒業生、教職員又は[※]在学生父母の方限定

※UCカードのみ



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

お問い合わせ先:

北海道大学総務企画部広報課

電話:011-706-2012/2072

E-mail: kouhou2@jimu.hokudai.ac.jp

北海道大学校友会エルム

011-706-2101/2102

kouyukai@general.hokudai.ac.jp

抱
いた
場
所
へ。
あ
の
日
大
志
を
帰
ろ
う。
。

9.24

2016
[Sat]

北海道大学
ホームカミングデー
2016

お問い合わせ先

北海道大学 総務企画部 広報課

TEL:011-706-2012 FAX:011-706-2092

受付時間 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日を除く)



<http://www.hokudai.ac.jp/home2016/>

会場 北海道大学 札幌キャンパス

主催 北海道大学

共催 北海道大学校友会エルム



HOKKAIDO UNIVERSITY
HOME COMING
DAY 2016

Be ambitious again!

ホームカミングデーとは

北海道大学の同窓生が、学部・学科や地域そして世代の枠を超えて母校に集い親睦を深めることで、同窓生相互の発展と連帯強化につなげようと企画いたしました。

この機会に同窓生や在学生、そのご家族などにも緑豊かなキャンパスにお集まりいただき、母校の現状や教育研究の諸活動などをご紹介しますとともに、恩師、学生と交流していただくことにより、同窓生等と北海道大学の連携が強まり、相互理解が深まるものと考えています。



全学行事 歓迎式典・記念講演会

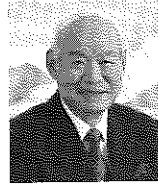
〔開催場所：クラーク会館 / 受付時間：9:00～〕

9:50 ● 交響楽団による演奏

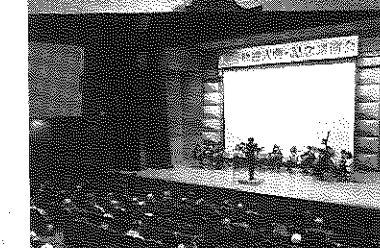
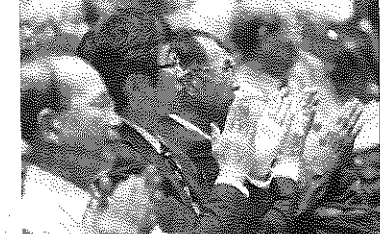
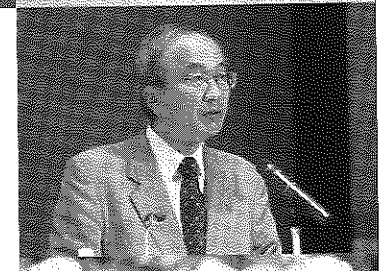
10:00 ● 歓迎式典



ご挨拶
「北大の近況についてご報告」
北海道大学総長
山口 佳三



ご挨拶
北海道大学
校友会エルム 会長
石山 喬



10:30 ● 記念講演会



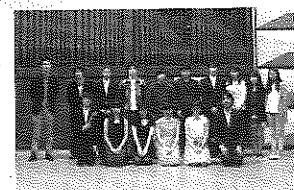
講演者
小林 快次
北海道大学総合博物館 准教授



〔演題〕
恐竜研究最前線
北海道大学が恐竜研究で大活躍！

〔講演要旨〕
北海道大学は、今や恐竜研究の中心です。世界で恐竜発掘調査を行い、近年では北海道からも日本で一番状態の良い恐竜全身骨格化石を発掘しました。また、北海道大学の卒業生も今では世界を先駆ける研究を行っています。この講演では、カナダ、アラスカ、モンゴルといった今年の夏の発掘調査を中心に、最新の恐竜研究事情をお話します。

11:20 ● 北海道大学パイプオルガン研究会による
歓迎のステージ



1. 都ぞ弥生
 2. 永遠の幸
 3. トッカータとフーガ ニ短調 BWV565 (バッハ作曲)
 4. 主よ人の望みの喜びよ BWV147 (バッハ作曲)
- 演奏：辻ゆり 文学部4年

11:30 ● 恵迪寮同窓会による「都ぞ弥生」斉唱～フィナーレ

北海道大学 ホームカミングデー2016 公開シンポジウム

地域を創造する人育て

～産業・生活・学びを支える担い手をめぐって～

北海道では多くの地域で人口減少が進んでいます。人口減少が進展する地域を活性化させるためには、地域を創造する担い手が必要になります。本企画では、北大教育学部で幅広い視点から教育のあり方について学び、道内の各分野で活躍しているの方々をお招きし、地域を創造する担い手を育てるのに何が必要かについてご意見を伺い、今後の展望を考えます。

平成28年9月24日(土) 14:00～16:30

北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)103室

パネルディスカッション

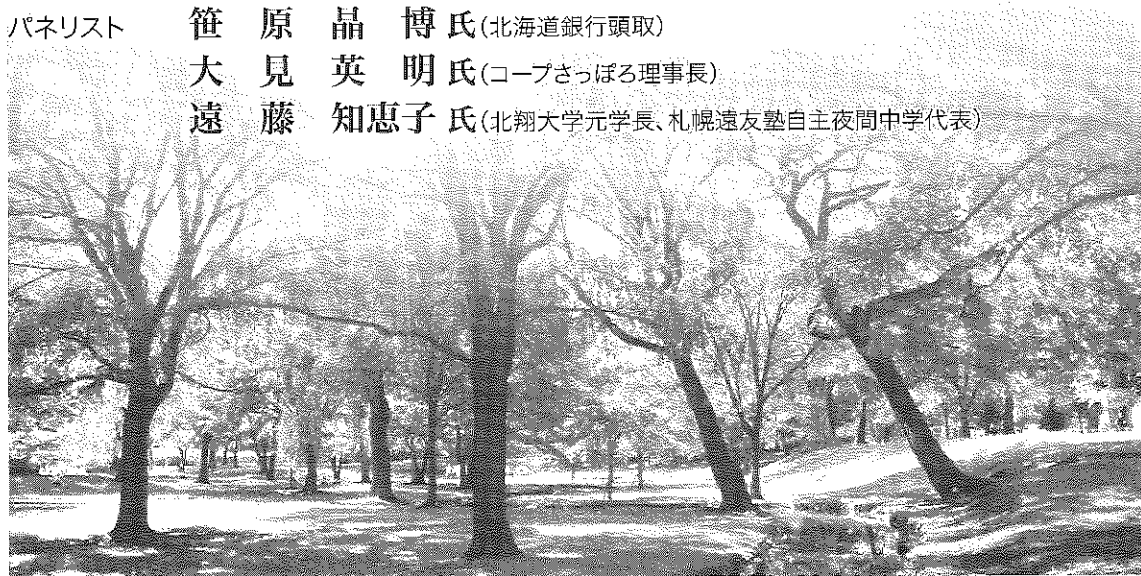
開催時間 14:00～16:30(質疑応答・休憩含む)

司 会 小 内 透(北海道大学大学院教育学研究院院長)

パネリスト 笹 原 晶 博氏(北海道銀行頭取)

大 見 英 明氏(コープさっぽろ理事長)

遠 藤 知恵子氏(北翔大学元学長、札幌遠友塾自主夜間中学代表)



パネリスト紹介

ささはら まさひろ
笹原 晶博氏

1979年 北大教育学部卒業 (北海道銀行頭取、1979年 北海道銀行入行、2003年取締役執行役員、2010年代表取締役副頭取を経て、2015年6月 北海道銀行頭取に就任。

地域金融機関としての機能とネットワークを駆使し、道内各地域のお客様・企業・自治体とともに北海道経済の発展のため、地方創生に日々全力で取り組んでいる。



おみ ひであき
大見 英明氏

1982年 北大教育学部卒業。生活協同組合コープさっぽろ理事長。

1982年コープさっぽろ入社。1998年リニューアル本部長、2002年常勤理事、2006年専務理事を経て、2007年より現職。存続の危機から一転、目覚ましい経営改善を遂げ、同生協を全国第2位の規模に発展させ、電力供給業に参入するなど、道民の生活向上に貢献し続けている。



えんどう ちえこ
遠藤 知恵子氏

1963年 北大文学部卒業、1991年 北大大学院教育学研究科博士課程単位取得退学(1994年教育学博士取得)。北翔大学元学長、札幌遠友塾自主夜間中学代表。

弘前学院大学助教授、北翔大学教授を経て、2006年北翔大学学長就任。2010年北翔大学退職後、札幌遠友塾自主夜間中学に関わり、2012年より代表として、教育機会に恵まれなかった人々に学びの機会を提供している。この活動により社会貢献支援財団から2013年度社会貢献者表彰を受ける。

